

<b>〔科目名〕</b> 人間の歴史	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 大谷 伸治 Ohtani Shinji	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> メールで調整の上、対応可能 <b>場所:</b> 講師控え室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 小学校から高校まで学んできた歴史は、自分たちの地域の話はほとんど出てこないし政治の話ばかり。自分には関係ない昔の話なのに、なぜ勉強しなければならないのだろうと思ったことはありませんか。でも、この講義は「人間の歴史」。歴史を創ってきたのは決して名を残した偉人だけではありません。名もなき人々の生活が連綿と続いてきたからこそ今があります。この講義は「北方からみる〈日本〉の歴史」と名付けて、特に北海道や青森に住んでいた人々の視点から、今まで学んできた日本史をもう一度見直してみます。きっと今までとは違う日本と青森が見えてくるはずですよ。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 歴史は単なる暗記科目ではありません。何事にも必ず歴史があります。歴史を知って視野が広がると、現在を相対化して観察できるようになります。そうすると歴史は、現在あるいは未来の在り方を考えるためのひとつの指針となります。歴史学とは本来そのような学問です。この講義を受ければ、最初は少し難しいかもしれませんが、史資料の読解力(情報・メディアリテラシーの1つです)やそうした歴史的な見方・考え方を身に付けることができます。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <b>(最終目標)</b> 常識や固定観念に縛られず、北海道や青森で生活していた人々の視点から史資料を読み解き、これまで学んできた画一的な〈日本〉像を相対化しながら、歴史の実相を分析・考察することができるようになる。そこで身に付けた歴史の見方・考え方をいかして、国際化・グローバル化の著しい世界における地域や日本の在り方を考えることができるようになる。 <b>(中間目標)</b> 常識や固定観念に縛られず、史資料にもとづいて、当時の人々の生活や文化を読み解くことができるようになる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 前回の振り返りの時間が長く、本時の最後が時間不足となってしまった点について、ご指摘いただきました。一方で、前回の振り返りについては、好評の声もたくさんいただきました。よって今年度は、本時に十分時間が取れるように、前回の振り返りを短くしつつも内容の質は落とさないよう努めたいと思います。		
<b>〔教科書〕</b> なし。毎回の授業時に資料を配布します。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 小瑤史朗・篠塚明彦編著『教科書と一緒に読む 津軽の歴史』(弘前大学出版会、2019年)		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 下記の通り、平常評価・中間評価・期末評価を合算して、最終的な成績評価をおこないます。 [平常評価] リアクションペーパー&授業への参加度 30% ※単なる出席点ではありません [中間評価] 中間レポート 35% [期末評価] 期末レポート 35% リアクションペーパーは毎回の講義後、Google フォームにて提出してもらいます(出席はこれで確認します)。講義を通して、わかったこと/おもしろかったこと・心に残ったこと/疑問に思ったこと・もっと知りたいと思ったこと、など自由に記述してください(評価基準は次項参照)。次回の授業の際に紹介・回答します。 中間レポートは、読書感想文です。目的は、①研究のエッセンスが詰まった新書・文庫に親しむ態度を養う、②講義だけでは扱えない近年の日本史研究(考古学・民俗学を一部含む)の成果を知り歴史を学ぶ意味を考える、の2点です。 期末レポートは、講義全体をふまえての振り返りです。目的は、①この講義を通して、歴史・日本史に対する見方・考え方がいかに変容・深化したか、自身の変容と気づき(成長)を整理・分析し、メタ認知を深める、②そのうえで今後どのよ		

うな学修をおこなっていくのか、目標を設定しさらなる成長を目指す、の2点です。

### 【評価の基準及びスケール】

- リアクションペーパーは記述内容から、①理解度(「わかったこと」の記述)、②思考力(「おもしろかったこと・心に残ったこと/疑問に思ったこと・もっと知りたいと思ったこと」の記述)の2点から総合的に評価します。
- レポートの評価基準は、中間・期末レポートともに、下記の基準で5段階評価し7倍します。なお、日本語を母語としない留学生等は、文意の点については考慮します。
  - 5:レポートテーマの要件を満たし、具体例を交えて自分なりの言葉で表現し、タイトルや構成も工夫している。
  - 4:レポートテーマの要件を満たし、具体例を交えて自分なりの言葉で表現している。
  - 3:レポートテーマの要件を満たし、自分なりの言葉で表現し、文意が通る。
  - 2:レポートテーマの要件を満たしているが、文章が稚拙で、読むに堪えない。
  - 1:レポートテーマの要件を満たさず、文章があまりにも稚拙であり、読むに堪えない。

### 【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- みなさんの素朴な気付きや疑問をいかしながら授業をつくっていきたいと考えています。予備知識の有無は問いません。素朴な気付きや疑問は自分だけでなく、他の人の理解や見方・考え方を深めるきっかけになります。恥ずかしがらずに感じたことを素直に表現してほしいと思っています。
- 講義形式ではありますが、できるだけ双方向になるように、授業中にスマートフォンでレジュメ内のQRコードを読み取って、Google フォームにアクセスしてもらい、クイズに答えてもらったり意見を求めたりします。授業後には、この方法で、リアクションペーパーを提出してもらいます。学生同士には匿名ですから、積極的に参加してください。
- 前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。
- 受講のマナーを守ることができず周りの人の学習権を侵害する学生の履修は固くお断りします。

### 【実務経歴】

該当なし。

### 授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): インTRODクグション ～歴史とは何か?～ 内 容: 講義全体の概要を説明するとともに、人間の歴史とは何か、歴史を学ぶ意味とは何かについて問題提起します。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 古地図からみる(日本) ～前近代の人々にとっての(日本)とは?～ 内 容: みなさん日本地図は描けますね。でも昔の人たちも同じように描くでしょうか? この回では、グループワークで、前近代の人々が描いた日本地図を年代順に並べ替える活動に取り組みます。その活動を通して、前近代の人々がどのように(日本)を認識していたのかを考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 北海道からみる原始・古代の(日本) ～北海道と本州以南のちがいは?～ 内 容: 北海道は本州以南とは異なる独自の生活・文化が生まれ、異なる歴史をたどったことはよく知られています。しかし、その理由や実際に北海道の人々がどのようにくらししていたか知っていますか? 北海道の遺跡から発掘された考古資料を手がかりにそれらのことを考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第4回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる中世の(日本) ～十三湊が栄えていたのはなぜ?～ 内 容: 北海道は本州以南とは異なる独自の生活・文化が生まれ、異なる歴史をたどったことはよく知られています。しかし、その理由や実際に北海道の人々がどのようにくらししていたか知っていますか? 北海道の遺跡から発掘された考古資料を手がかりにそれらのことを考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近世の(日本)① ～西目屋村が栄えていたのはなぜ?～ 内 容: 2019年現在、青森県で最も人口が少ない村・西目屋村。しかし江戸時代の弘前藩では、弘前、青森に次いで人口の多い村でした。なぜ江戸時代の西目屋村は栄えていたのでしょうか? 近世の津軽・日本のみならず、東アジアや世界など多角的な視点でその謎にせまります。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近世の(日本)② ～北前船寄港地として栄えた深浦・野辺地～ 内 容: 深浦と野辺地も今では小さな港町です。しかし、かつては北前船の寄港地として栄えた港町でした。今でもその町並みや文化にはその跡が残されており、両町はそれを観光資源としてPRしています。当

	時の文献史料から、近世の深浦・野辺地のにぎわいや栄えた理由を考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近世の(日本)③ ～青森に「蝦夷錦」が多いのはなぜ?～ 内 容: 近世後期に高値で取引された「蝦夷錦」と呼ばれる布地。実は青森県が現存数では一番多いのです。なぜでしょうか? そもそも「蝦夷錦」とは何か、どのように日本・青森にやってきたのか、当時の人々にとってどのようなものだったのか、当時の史資料をもとに考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 近代の幕開け「ペリー来航」再考① ～来航前夜・庶民の反応～ 内 容: 近代日本の幕開けとして語られる「ペリー来航」。ペリーの軍事力の前に幕府はなす術もなく開国させられたというのが一般的な理解です。しかし本当にそうでしょうか? 2回にわたって、当時の史料を読み解きながら、その実像にせまります。この回では、来航前夜の日本の対応や、来航直後の庶民の反応をみていきます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 近代の幕開け「ペリー来航」再考② ～実際の交渉過程～ 内 容: 第8回の続きです。この回では、日米交渉の様子を記した日米双方の史料を読み解きます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近代の(日本)① ～東奥の自由民権運動～ 内 容: 自由民権運動といえば板垣退助の故郷高知県や五日市憲法などが有名です。でも実は東北も民権運動が盛んだったのです。弘前を事例に、どのような人たちが、なぜ民権運動に積極的に参加していったのかをみていきます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近代の(日本)② ～軍都弘前～ 内 容: 弘前といえばどんな町でしょう? 近世は城下町として、現代は桜の町あるいは学都として知られます。では、近代は? 実は「軍都」と呼ばれていました。陸軍第八師団が設置されたからです。なぜ城下町から軍都になったのか、陸軍はどのようなことをしていたのか、日清・日露戦争期を中心に概観します。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 青森からみる近代の(日本)③ ～東京大空襲と青森大空襲～ 内 容: アジア・太平洋戦争末期、日本全国の都市が空襲されました。青森も例外ではありませんでした。東京と比較しながら、その規模や当時の状況、空襲された理由を史資料から読み解きます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第13回	テーマ(何を学ぶか): 「終戦」の日はいつか?① ～玉音放送と玉音写真～ 内 容: 現在、終戦記念日は8月15日と定められています。昭和天皇がラジオ放送で終戦を伝えた日です。でも玉音放送をちゃんと聞いたことがありますか? 玉音放送とその瞬間をとらえたといわれる写真を題材にして、あの日を追体験するようにしながら、真相にせまります。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第14回	テーマ(何を学ぶか): 「終戦」の日はいつか?② ～樺太・千島戦～ 内 容: 終戦間際の1945年8月8日。ソ連が対日参戦し、満州や樺太・千島に侵攻してきました。では、その戦いはいつ終わったのでしょうか? 兵士たちの回想録から戦いの様子や終戦に至る過程を読み解きます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
第15回	テーマ(何を学ぶか): 戦後日本政治と原子力の「平和利用」 内 容: 青森県には原子力関連施設が多くありますが、そもそも原子力の「平和利用」はどのようにして始まったのでしょうか? 戦後日本は唯一の被爆国として原水爆禁止運動に熱心に取り組む一方で、原子力の「平和利用」を積極的に推進してきました。その謎を、戦後日本政治史、特に55年体制成立期を手がかりに考えます。 教科書・指定図書 なし。資料を配布します。
試験	レポート課題の提出